

## 1年生を迎える会

4月22日(水)に児童会が中心になり「1年生を迎える会」を計画、実施しました。児童会役員も6年生になり初めての大きな仕事でしたので緊張したかと思いますが、立派に会を運営していました。

会の流れでは、まず、1年生が6年生と手を繋いで入場します。とても微笑ましい光景です。その後、一緒に前の合唱台に並びます。その場で1年生が自己紹介をします。自分の名前と一緒に将来の夢(なりたいもの)を言う子もいました。男の子は時代を反映してか「サッカー選手や野球の選手」が多く、女の子では「ケーキ屋さんや看護師」と答える子が多かったです。

児童会長の長田真実(まみ)さんの歓迎のことばの後、待ちに待った「ふれあいタイム」になります。「ふれあいタイム」では、北小クイズ劇場「浦島太郎」を児童会役員が演じます。その中で、北小にちなんだクイズをしました。

例えば、次のようなクイズです。

(質問)北小で一番多い名字(みょうじ 姓)は次の中のどれですか。

(選択肢は次の4つからです) ①長田 ②保延 ③今村 ④野沢

みなさんどの名字(姓)だと思いますか。 正解は①の長田です。

次に「じゃんけん新幹線」をしました。これは音楽に合わせて動き回り、出会った人同士でじゃんけんをして負けたら勝った人の後ろにつく、というゲームです。最後にはとても長い列が幾つか出来ます。勝ち残った何人かの子が自分の名前を発表します。じゃんけんゲームの勝者にみんなで惜しめない拍手を送りました。

その後、縦割りグループ毎に集まりお互いが自己紹介をします。本校の縦割り班は、赤・白10班ずつ合計20の班があります。それぞれに縦割り班リーダーがいます。ですから1つの班に6年生は2,3人ということになります。

縦割りグループ毎の活動になると、リーダーの力量が問われます。6年生にとっては初めてのリーダーとしての仕事でした。なかには声が小さかったり、適確な指示が出せない子もいましたが、どの子も一生懸命リーダーとしての役割を果たそうとしている姿が好感が持てました。この縦割りグループは、異年齢集団での集いや運動会などの取り組みにより、高学年児童には(班員の指導を通し)リーダーシップや責任感を養い、低学年児童には、自分が高学年になったらみんなから頼りにされる今の6年生や5年生のようになりたい、という気持ちを育てます。(モデルの提示)特に昔に比べて兄弟姉妹数の少なくなった現在の家庭状況も考えると、年齢を越えた人間関係を養う貴重な機会になっているように思います。(当日の様子を映像で紹介します)

6年生と手をつないでの入場

浦島太郎の劇



## 今の病院に入院しますか

以前、自宅でテレビを見ていると、医療についての特集をしていました。(ただゆっくり腰を据え見ていたので事実と違う面があるかも知れませんが)その中で考えさせられた内容がありました。病院に勤務している人たちに聞いたそうです。

### ◎ あなたが病気になり、入院することになったら、今勤務している病院に入院しますか。

入院する病院を選ぶには、医師の医療技術、病院スタッフの親身になっての世話、病室の清潔さ、使いやすさ、病院スタッフの人柄や笑顔等々、様々な要素があるでしょう。特に、病院に勤めている人たちは、自分の病院の様子を冷静に見ています。調査結果によると、90%を越える高い支持を得る病院がある反面、40%に満たない低い評価の病院もありました。その場で働いている人たちが「入院したい」と考えている病院ほど、良い病院ということになります。

私がこの時思ったことは、実はこのことは他人事でなく学校も同じではないか、ということです。敷島北小はこの地区に住む小学校に就学する年齢の子どもたちを自動的に受け入れています。患者さんが病院を選ぶように、保護者の方々が子どもに学ばせたい学校を自由に選ぶことは出来ません。(無理をすれば可能でしょうが)東京都の幾つかの区で取り入れている学校選択の自由は、確かに良さもありますが、小学校においては弊害の面が指摘されています。(通学の困難さによる子どもの疲労。地域の教育力の低下。良い面、悪い面も含め子どもが住み慣れた地域の中で育つことによる健全な人格形成という大切な面がポツカリ空くことの危うさ等々)

私は校長として赴任した学校で常々先生方をお願いしていることは、「お子さんをお持ちの方は、『わが子をこの学校で学ばせたい。』お子さんをお持ちでない方は、親しい方に『うちの学校は素晴らしいよ。ぜひ入学して。』と勧めることが出来る、そんな学校に本校が成っているか、時々考えてみて下さい。」ということです。

さあ、ここで保護者の方から鋭い質問が飛んできます。

「では校長先生、先生はご自身の子どもを北小で学ばせたいですか。」

事の是非はともかく、事実として私自身は3人の子どもを敷島北小で学ばせました。

ただ、次のようなことは言えるかと思えます。どのような組織(病院、学校等)でも、はじめから、「素晴らしい病院(学校)」というものはないと思えます。その組織が高い支持を得るようになるまでの過程には、組織のスタッフからの建設的な意見を取り入れ、組織のあり方を見直し、改革していく姿があったのでしょうか。そのように考えると、高い支持を得る組織、理想的な組織には次のような特色があるかと思えます。

- ①その組織のスタッフが、自分たちの組織のあり方について自由にものが言える雰囲気を持っていること。改善策等の提言を自由に言える雰囲気があること。
- ②組織を取り巻く方々(学校ならば保護者、病院ならば患者さん等)の意見、要望を取り入れる柔軟性、風通しの良さがあること。

自分たちの組織を冷静に見ることなく、客観的な判断材料も持たず「うちの病院(学校)は素晴らしい」という盲信は、結局、組織改革の停滞を招き、最後には組織自体を滅ぼすことに繋がることになります。

敷島北小の教育活動についても、機会がありましたら保護者の皆様からの率直なご意見をお聞きし、学校改善に生かしていきたい、そんな考えも持っています。